

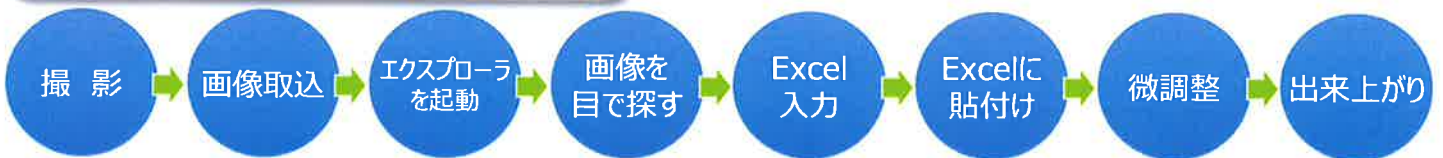
参考出展

AIプラス

貨物ダメージ情報管理ソリューション
Damage Tracer

面倒な貨物のダメージ情報管理。貨物の画像を撮影するだけでダメージのある貨物をAIが自動判別し、ダメージ種別、ダメージレベルを判定。ダメージ部分にも自動マーキング。

一般的なダメージレポート発行手順



Damage Tracer でのダメージレポート発行手順

① 登録（手書きサインも）

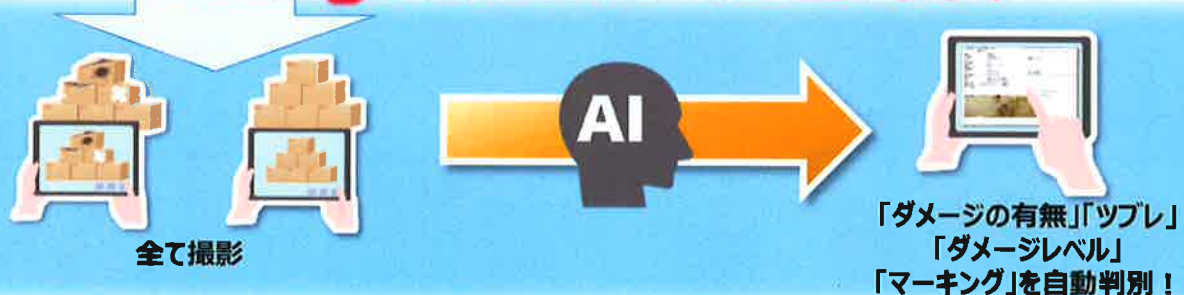


② 検索（各種問い合わせ対応）

／レポート発行（出来上がり！）



Damage Tracerに“AIをプラス”



特長 1

ダメージの種別を自動判別！

「ツブレ」「ヨゴレ」等のダメージ種別をAIが自動で判別。これまでの人がダメージ種別を判断し登録する作業が不要になります。

特長 2

ダメージレベルを常に同じ基準で判断！

ダメージレベルを一定の基準でAIが判断。複数の人が目視で実施する場合と比較し、ダメージレベルの判断にずれがでません。

特長 3

ダメージ部分に自動マーキング！

AIが認識したダメージ部分を自動マーキング。人が撮影した画像に手でマーキングする手間がなくなります。



▶ 貨物ダメージ情報管理ソリューション「Damage Tracer」概要

貨物ダメージ情報管理システムは、貨物現場のカメラ機能付きモバイルデバイス（タブレット端末・スマートフォン）でダメージ画像を撮影し、ダメージ情報と貨物を特定するキー情報を共に管理するシステムです。既にご利用中のカメラ機能付きモバイルデバイスを利用することも可能です。

● カメラ機能付きモバイルデバイスの優位性

従来、デジタルカメラで画像撮影を行っていた場合は、現場から事務所に戻り、事務所のPCでキーを付与しながら画像格納を行っていました。本製品では、現場で現物の写真撮影を行い、現場でキー情報の付与が行えるため、情報一致が可能です。さらに、現場でのキー情報付与の手間を削減するため、サジェスト機能も実装しています。

● 貨物ダメージレポート機能

貨物レポートの作成機能をサポート。ダメージ画像を貼り付けたレポートの作成が可能です。キー情報を指定すると、必要な情報が報告フォーマットに自動で反映されます。

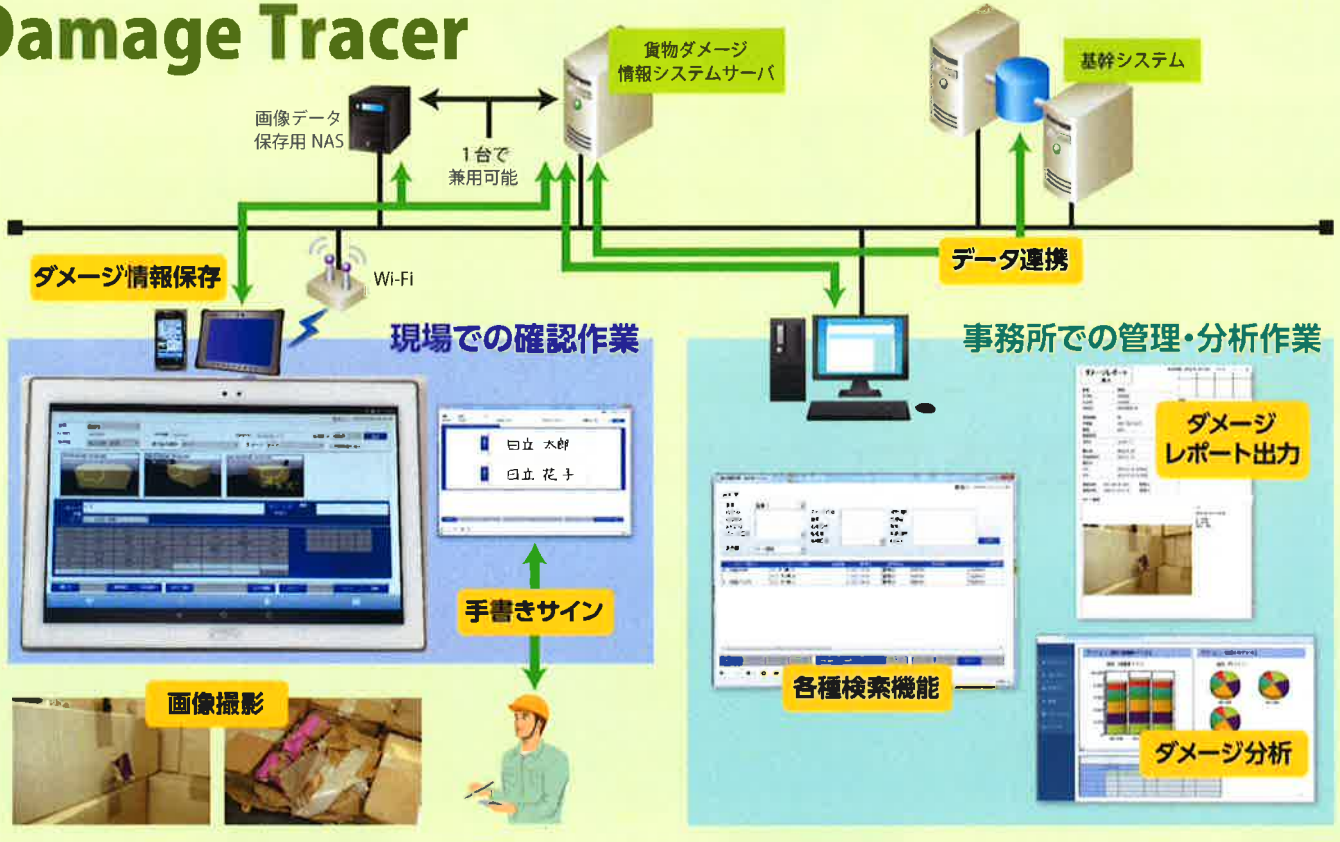
● サイン機能

貨物のダメージ画像を確認し、搬入者・受取者の手書きサインを貨物のダメージ画像と共に管理できます。オプションのモバイルプリンタがあれば、貨物受渡し現場でサインを行ったダメージ確認帳票の印刷が可能です。

● 貨物ダメージ分析機能（オプション）

基幹システムとの情報連携により貨物属性（発地、経由地運送会社等）とダメージ情報（ダメージ種別、ダメージレベル）を組み合わせた分析が可能で、画像と組み合わせるとダメージ抑止のための分析データの抽出が可能です。

Damage Tracer



※製品価格に関しては個別お問い合わせください。

- Excelは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

商品・サービスに関するお問い合わせ・ご相談受付

電話による受付

☎ 0120-954-536

受付時間 10:00～17:30 月曜日～金曜日（祝日、当社休業日を除く）

メールによる受付

hsc-contact@mlc.hitachi-solutions.com

※ご相談、ご依頼いただいた内容は、回答等のため、当社の親会社（株式会社日立ソリューションズ）、親会社の関連会社及び株式会社日立製作所に提供（共同利用も含む）することがあります。取り扱いには充分注意し、お客様の許可なく他の目的に使用することはありません。

HSC201804 ※製品仕様は、改良のため予告なく変更する場合がございます。最新情報は、当社ホームページをご参照ください。※本内容は、2018年4月現在のものです。

株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト

<http://www.hitachi-solutions-create.co.jp/>